

インゲンマメの育て方

●基礎知識

科名：マメ科
別名：菜豆、三度豆
原産：中南米

●栽培に必要な準備物

たね、ビニルポット、苦土石灰、堆肥、化成肥料、移植ごて、じょうろ など

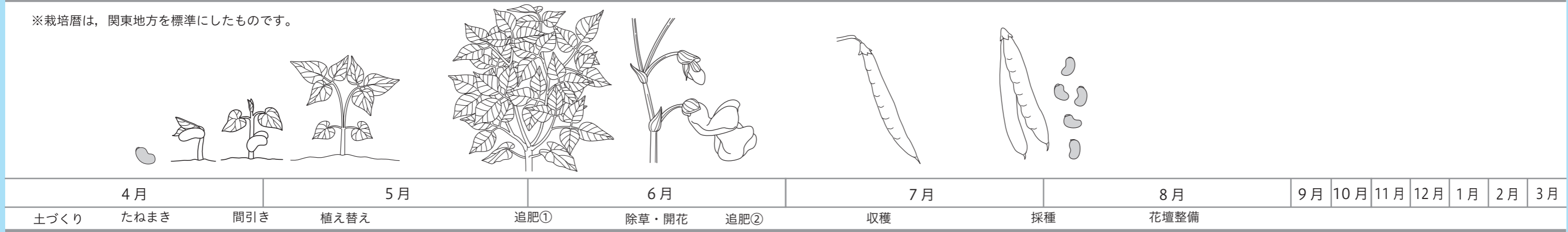
●5年の学習との関連

植物の発芽や成長に必要な条件が何かをとらえる。
〔副教材：トウモロコシ〕

●6年の学習との関連

植物の葉に日光が当たることで、葉にでんぷんができることをとらえる。
〔副教材：ジャガイモ〕

※栽培暦は、関東地方を標準にしたものです。

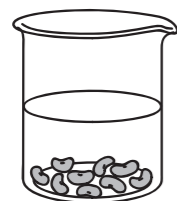


土づくり・種子の吸水

土づくり
栽培の下準備として、良質な土づくりを行う。

- ①前に植えた植物や根などを取り除き、土を耕して柔らかくしておく。
- ②耕した土に苦土石灰をまき、よく耕す。
- ③幅 50～60cm、高さ 10cm の畝を作り、元肥として堆肥 1 kg、化成肥料 100g を施す。
元肥は、植え替えの2週間前までに終わらせておくとよい。

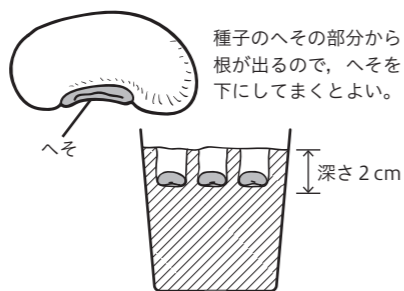
種子の吸水
インゲンマメの種子は、たねまきの前日から、一晩水につけておくことで、発芽率が上がる。



たねまき・間引き

土を入れたビニルポットに深さ 2 cm ほどの穴をあけ、3 粒の種子をまく。覆土が足りないと、発芽不良を起こすので、注意する。

たねまきのあと、たっぷり水をやる。発芽までは、小まめに水やりはしない。土の表面が白く乾くまでそのままにしておくとうい。



初生葉（初めに出る 2 枚の葉）が出たら間引きし、ビニルポット 1 つ当たり 1～2 本にする。

植え替え

本葉が 1～2 枚出てきたら、植え替えの時期である。

- ①根を傷つけないようにビニルポットから土ごと取り出す。
- ②25～30cm の間隔をあけて、ビニルポットの土ごと埋め、上に 1 cm ぐらい土をかぶせる。
- ③水やりをする。このとき、土が流れてしまわないように、静かに行うこと。



根がしっかり定着するまでは、小まめに水やりはせず、土が乾いたら行う程度にする。

追肥

追肥①
開花前（つぼみが膨らみ始めたころ）に、1 株当たり大さじ 1 杯の化成肥料を株のそばにまき、周りの土となじませる。
この時期は、雑草も多くなるので、合わせて除草するとよい。

追肥②
1 回目の追肥から 20 日後を目安に、化成肥料大さじ 1 杯を株周辺にまく。
※つるなしインゲンの場合は、栽培期間が短いため、葉の色がよく、生育の状態が良好であれば、2 回目の追肥を施さなくてもよい。

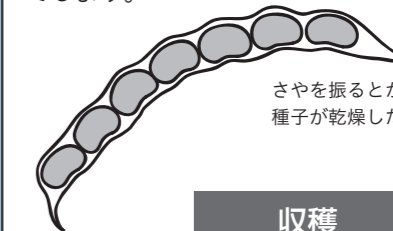
除草

除草
梅雨時期などは特に雑草が多く生える。雑草は、土の栄養を奪ってしまうだけでなく、風通しや日当たりも阻害してしまう原因になるので、こまめに除草するとよい。

水やり
苗が小さいうちは、水をやりすぎると苗が腐ることがあるので注意する。
また、水がはね返り、葉やさに泥が付着すると、そこから腐敗してしまうことがあるので、丁寧に水を与えるようにするとよい。

採種

次年度に使用するために採種する。実ができたなら、そのままさが茶色く変化し、中の種子まで完全に乾燥するまで放置する。さが枯れ始めたら、水がかからないように注意する。水がかかったり、日かげでさやの乾燥が十分でないと、さやの中で発根してしまう。



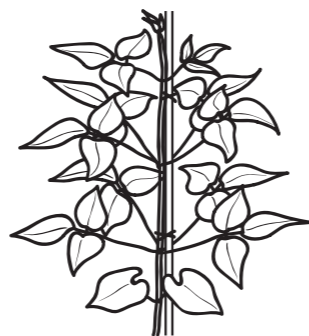
収穫

実を食用とする場合は、開花から 10～15 日前後が収穫時期となる。さが若く柔らかいうちに順次摘み取るとよい。
収穫は、手でちぎるのではなく、さやの根もとをはさみで丁寧に切ることで、病気を予防することができる。

■インゲンマメが好む環境

日当たりと通気性のよい環境を好む。つるなしインゲンの場合、通常支柱を立てずに栽培するが、茎が倒れてしまったりして葉や茎が密集すると、日当たりや通気が悪くなってしまうので、葉や茎が密集してきた場合は、支柱で茎を固定するなどして日当たりと通気をよくしてやるとよい。

また、花に直接水が当たると受粉がうまくいかないことがある。開花が始まったら、花に水がかからないよう、雨や水やりのときには注意が必要である。

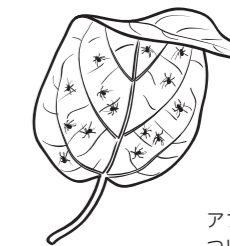


支柱は、1 株に 1 本ずつ立て、主枝をひもで結び付けるようにするとよい。

■注意が必要な病気、害虫

インゲンマメの栽培でいちばん注意したい病気はモザイク病である。モザイク病にかかったインゲンマメは、葉の色がモザイクのようにまだらになり、株全体が萎縮し葉が奇形を起こしたりする。このモザイク病は、アブラムシによるウイルスの伝播が主な原因である。

また、アブラムシの発生に注意し、健康な状態を維持したい。アブラムシの予防には、防虫剤の散布のほかに、銀色のマルチシートや銀色の繊維などが編み込まれたネットの使用が有効であるといわれている。銀色のマルチシートなどを使用して太陽の光を反射させると、アブラムシは通常受けるはずのない地表からの光に混乱し、方向を認識することができなくなるといわれている。



アブラムシは、葉の裏についていることが多い。